

～研修前夜～

恒例の Ocean house restaurant で研修前夜のお食事会。ちょうど日が落ちる頃最高のロケーションで食事を堪能し、明日からの研修に向け、みな気持ちが高ぶっているようです。



食事後にビーチに出て記念撮影し、これまた恒例の隊長部屋に集合し、自己紹介タイム。

1 日半という短期間であつという間にみな打ち解けて、『チーム長崎』として明日からの研修に期待が持てそうです。



～研修1日目～

朝 8 時半に『チーム長崎』14 名、みな遅刻することなくロビー集合。  
緊張した様子もなく、タクシーに乗り込み SimTiki に向かいました。  
さっそく入口で記念撮影をし、5 日間頑張る決意をしました



9 時から Ben 先生のお話から始まり、全員が英語での自己紹介をこなした後に、シミュレーターの紹介、シミュレーター教育の実際に関して講義を受けました。

みな緊張の面持ちで、時々笑いながら楽しそうに研修が始まりました。



英語のシャワーを浴びて、少々疲れ気味の『チーム長崎』でしたが、カフェテリアでランチを取った後に元気を取り戻して、初めてのシミュレーターを用いた実習を Oliver 先生から受けました。



さらに英語のシャワーを浴び続け、様々な急患の診断を付けた後に、専門医に電話で診察依頼をするというこちらの医学生の4年生が受けるトレーニング内容でした。

診断と治療まではなんとか到達したのですが、電話での連絡にはどのチームも戸惑っていました。

4月の研修では日本語でも苦労するのに、ましてそれを英語でなんてと思っていましたが、頑張ってクリアしていました。



初めてのことでしたが、Oliver 先生から非常に褒められていました

思ったように上手いかなかったことに自信喪失気味の先生もいましたが、初日目としては非常に上出来だったと思います。

さらに先生が帰れないほどの質問が初日目から出ていたのには非常に驚きでした

夜は大人気の Cheesecake factory に 1 時間ほど並んで食事をとりました。量に驚きながら、しっかりチーズケーキまで堪能してきました。



お腹いっぱいになったところで、もれなく本日も夜のミーティング。  
3 つの症例をチームでまとめて発表してもらいました。



～研修2日目～

朝からは、様々な状況や器具を用いた挿管の練習を1時間半ほど行いました。あっという間に時間が経つというような感じでした。



昼からは Unstable patient への対応のシミュレーター訓練を3例ほど行いましたが、不整脈の対応などが思ったようにできずに全員で沈み込んでいましたが、症例ごとに feed back があり、Faculty の先生がたの優しい follow も手伝って何とか立ち上がってトレーニングを終了できました。



反省点ばかり目につくようですが、今年の『チーム長崎』はハワイ大学の先生たちにとっても特殊で、異彩を放っているようです。

その証拠に終了時間の3時になっても担当の先生は帰宅することなく、延々と講義が続くのでは？と思うほどの勢いでした。

ハワイ大学のスタッフに尋ねても、「今年も長崎の研修医はとても積極的だ！」とお褒めの言葉をいただきました。

そうは言われても多少落ち込んでホテルに戻ったわけですが、元気を出すために毎度であります、『John Hirokawa の Magic of Polynesia』(Hawaii 組にはわかるかと思いますが。)という、こてこてのアメリカンエンターテイメント(おそらく大阪の吉本に匹敵)も体験して完全復活しました。



～研修3日目～

早くも中日です。

今日は faculty の先生方のスケジュールの都合で、午前と午後ともにシミュレーターによる実習がありました。

朝からは、one night on call という、当直業務の模擬体験。

入院中の患者さんが具合が悪くなり、研修医の先生が呼ばれて初期治療を行うといった内容です。



まずは Mariさんから実習の説明があり、3名が1グループとなり、4つの症例に対しての対応をシミュレーターで行いました。

上手くいったグループ、そうでなかったグループ、様々でしたが、成長ぶりには非常に驚かされます。



患者さんの状態は。



昼ごはんの時間を過ぎてもシナリオを終わらせた後のデブリーフィングが続き、参加者の熱意が faculty の先生方へ完全に伝わっています。

さて、ランチの後はこのコースのハイライトでもある medical crisis team training

急変した患者が発生し、長崎大学で言うところの「ハートコール」の対応です。

30分ほどの講義の後に、いきなりシナリオがスタートしたのですが、最初は完全に烏合の衆です。

それぞれが自分の思い通りに行動し、何とか形にはなったのですが、チームというには程遠かったです。





講義で出た、カーレースのピット作業を目指して2例目を開始しました。

腹部大動脈瘤の術後の出血で、服をめくったときの山本先生の驚く姿は、松田優作張りでした。



それぞれのケースが終了した後は、3つのカメラで撮影された動画とモニターの様子、行った処置が画面に出てきてのブリーフィングが行われます。



非常にきびきび動いているようでしたが、画面を見てみなショックを受けていました。

もう本日のトレーニングは終了か？と油断しかかった時に3例目の症例でコールを受け、全員で駆け足で出勤しました。



これまでの2例の経験を生かして、完全なチーム作業で蘇生を進めていきましたが、途中でターミナルの患者で蘇生を希望しない(DNR)という設定であることが判明しました。

戸惑いながらもリーダー役であった高橋先生を中心に、状況に適切に対処して、シナリオを終了しました。(つまり患者さんが亡くなったということです)

シミュレーターであるにも関わらず、しばしの沈黙がありました。

参加した先生にはDNRと分かった瞬間からの5分が異常に長く感じたかもしれませんが、そこまでの感情を持たせるシナリオ設定はさすがと私は関心しきりでした。



終了して good job と言われても誰一人喜ぶ様子はなく、少し沈んでしまいましたが、非常にみなさんの成長を感じた瞬間でもありました。

この勢いであと2日間走り続けます。明日は病院見学して、この木何の木に全員で行きます。

～研修4日目～

映画の舞台にも設定された Queen's medical center は担当者の所要のため、急遽見学が不能となり Tripler Army Hospital の見学だけとなりました。



一つの病院とは言ってもかなり巨大な病院で、ベッド数は250床、もともとは1000床ほどあった病院ということで、とても広くて迷子になりそうでした。

内科の研修指導責任者である Vincent 先生に案内してもらいました。

Vincent 先生は、もともと Sim Tiki にも勤務されており、日本人の扱いにも非常に慣れており、笑い出すと止まらない先生でした。

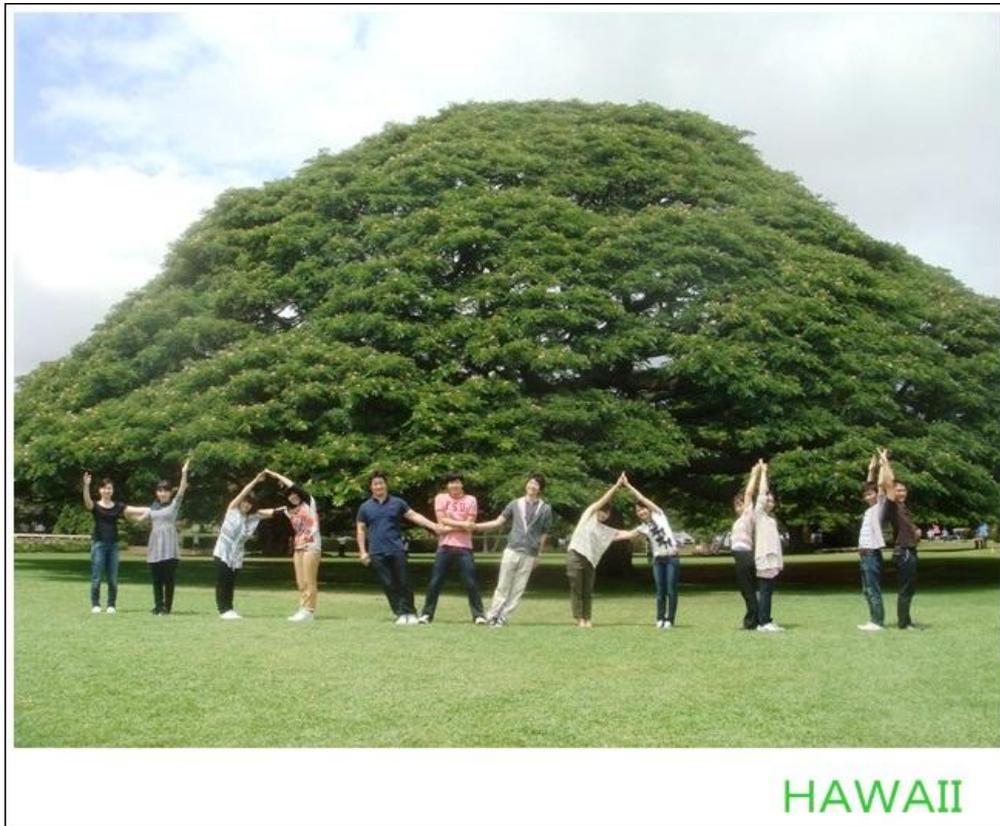
内科が毎朝カンファをする部屋に通されて、全員でテーブルにあったコーヒーとクッキーを食べつくしてしまいました。

レクチャー後に病院内を案内していただき、北米の典型的なシステムの病院を見学し、みんな新しい発見の連続だったようです。



その後、病院から車で5分ほどの距離にある Moaluna Garden (この木なんの木がある公園) に立ち寄り、お約束の木の前で記念写真を撮りました。

ハワイ研修1回目(一昨年)は普通に並び、2回目(昨年)はジャンプしたと話したところ、全員で話し合っって人文字を作りました。わかるかな??



その後 Sim Tiki に戻り、再び Oliver 先生のシナリオを3例こなしました。

最後のシュミレータートレーニングとなるので、全員気合いが入っていました。コミュニケーションもバッチリで、質問も積極的にしていました

Oliver 先生からのこのグループはすごいなと改めて評価をいただきました。



3時半に終了した後は Sim Tiki のスタッフを招いて、Alamoana Shopping Center にある Island というバーで、ささやかな打ち上げ(1日早いですが)をしました。  
みんな積極的に英語で話しているのが印象的でした。



いよいよ明日は最終日です。  
体調崩すことなくアグレッシブなままでコースを終了したいと思います。

～研修最終日～

いよいよ最終日です。

朝からはCVの講義の後に、スキルトレーニングがありました。



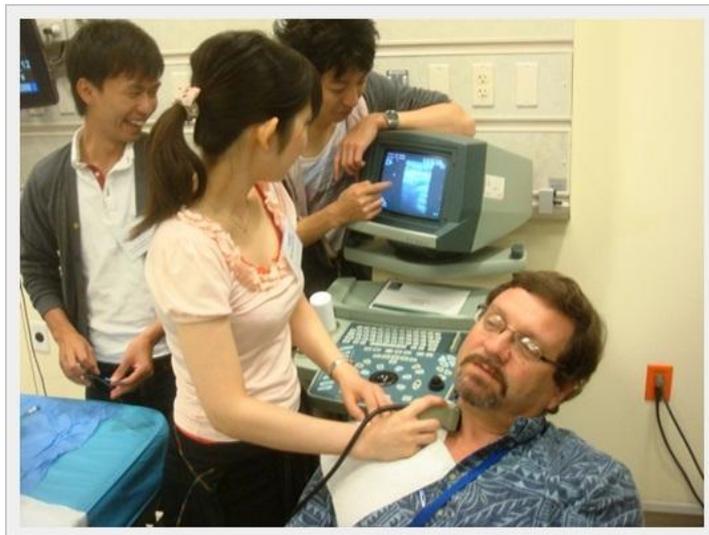
まずは解剖の理解ということで、参加者の中からボランティアが選ばれ、内頸動脈や胸鎖乳突筋、鎖骨などを参加者に触られまくりました。



その後にエコーを使った方法、鎖骨下、内頸、そして大腿と様々な手技を練習しましたが、みんな日頃の臨床のなかで指導医からよく鍛えられているのか、非常に上手でした。



その中で驚いたのが、Bergus 先生が自らの首にエコーを当てて、実際に内頸動脈位置を教えていました。また息を止めて内頸静脈を拡張させたりということも同時に行っていました。



あっという間に時間が過ぎ、休憩時間もそっちのけで手技のトレーニングを行っていました。



午後からは鹿児島大学出身で、現在ピッツバーグ大学の family medicine で研修を行っている林先生と Skype を用いてアメリカ研修の現状をお話いただきました。

私を含め、鹿児島にゆかりがある参加者が 3 名いたことより、ローカルな話題などで質問タイムも大いに盛り上がりました。

最後に Bergus 先生から全員に修了書が手渡され、エントランス前で記念写真を撮り長いようで、あっという間であった 5 日間のコースが終了しました。

長崎の研修医は、毎年評価が高いのですが、今年は例年を上回る評価をほとんどの faculty からいただきました。



おそらく、昨年度に救命救急センターの山下先生やキャリア支援室の田下看護師が参加して、長崎でもハワイに負けないシミュレーター教育が行われていることが一つの要因ではと思いました。しかし、ハワイも毎年新しい仕掛けや試みがなされているので、継続的に研修医がコースを受講することで、知識をアップデートしながら、長崎でも同様のトレーニングが行うことができれば最高だと思いました。

すでに来年の企画も練ってきました。

6年生の医学生、1年目の研修医のみなさん、来年も奮ってハワイ研修に応募してください！！

宮本俊之@Waikiki